

佐倉城跡(佐倉市)

築城年代:天文年間(1532年~1546年)、築城者:千葉親胤

京成佐倉駅ロータリーにはこんな案内板が・・・



佐倉城跡へと歩くと、城址のある丘陵の上に国立歴史民俗博物館の建物が見えてくる

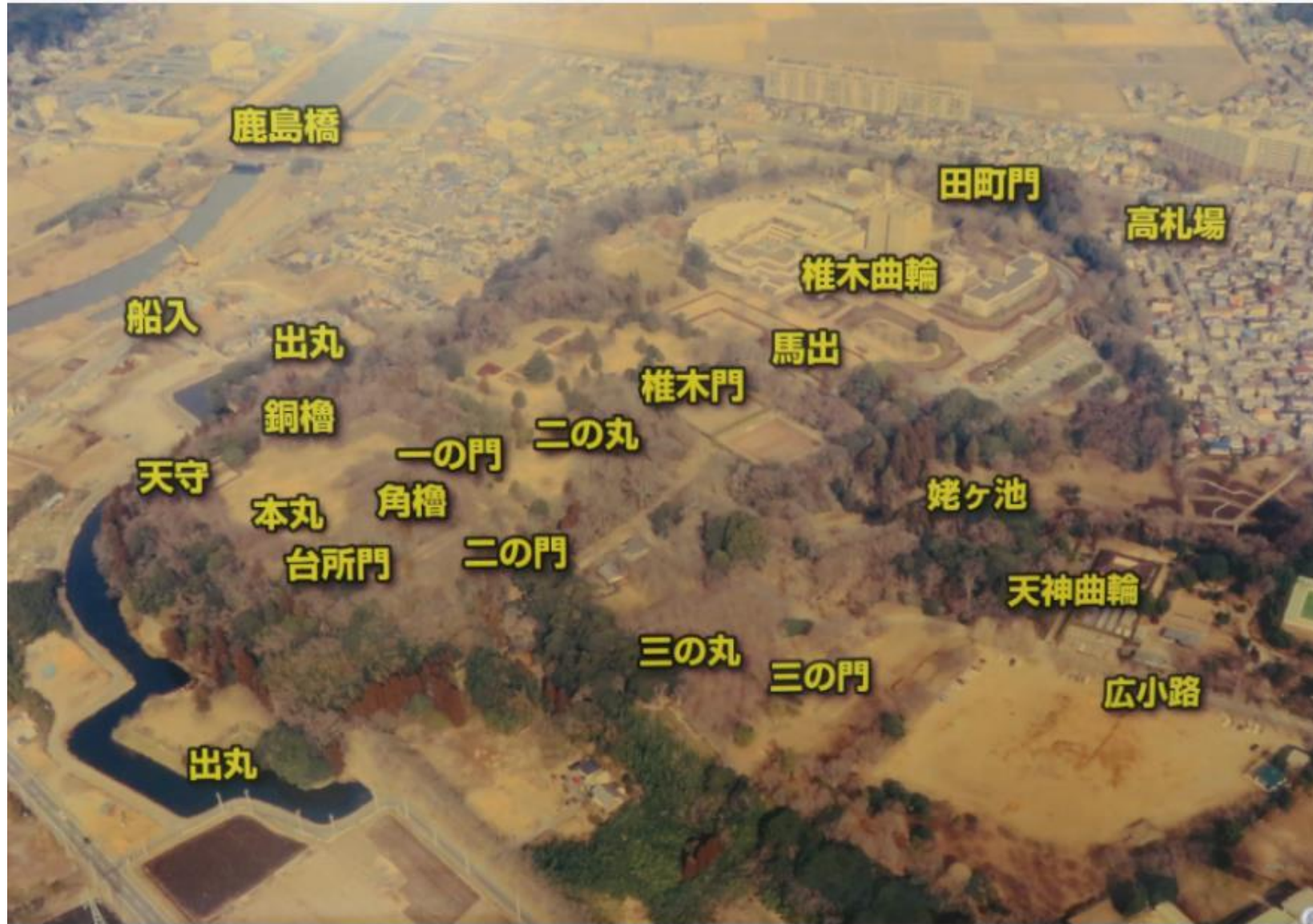


「歴博」の文字が見て取れる





これは佐倉城址公園センターに展示してあった縄張図/西に鹿島川、南に高崎川、北に広大な印旛沼があり、城は印旛沼から続く低湿地帯を眼下に見下ろす鹿島台地上に立地し、敵から攻めにくい場所にあった



それでは、田町門跡→外堀(水堀)→愛宕坂→円勝寺跡・愛宕神社跡→椎木曲輪へと進もう



ここが歴博への入口で、田町門跡/前方が愛宕坂



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ





右手の外堀(水堀)を見たところ



土塁が続いている



こんな塩梅



左手の外堀(水堀)を見たところ



土塁が続いている



こな塩梅



左手から見たところ



その土塁に登って見たところ



説明坂が立っている



た ま ち も ん あ と あ た ご さ か
田 町 門 跡 ・ 愛 宕 坂



成田街道に沿った城下町の一部「田町」から城内への門で、門の裏手に番所がありました。現在歴博のある場所は椎木曲輪と呼ばれ武家屋敷がありました。田町門から現在歴博のある椎木曲輪へ上がる坂は、愛宕神社の下にあるため「愛宕坂」と呼ばれていました。現在の歴博入口は連隊建設の際にまっすぐに出入りできるように変更されたものです。



佐倉城大絵図

付近にはこんな説明坂もあった



佐倉城だった場所には、大日本帝国陸軍の組織する歩兵第二連隊(後に歩兵第五十七連隊)の兵営が置かれていた/その為、城跡はかなり改変を受けている



右手(南東方向)へ進もう/土塁が続いている



前方に虎口が見える



こんな塩梅



右手を見たところ



土 塁



佐倉城大絵図



佐倉城は石垣のない土づくりの城です。城の防御のための土手を土塁と呼びます。土塁は城を外敵から守るために築かれたもので、土塁を巧みに配置して城の守りとしています。

左手を見たところ/虎口の先は外堀(水堀)を渡る木橋が架かっている



外堀(水堀)を渡って、振り返って見たところ



そこで左手を見ると城址の丘陵が続いている



右手を見たところ/外堀(水堀)が前方で左手に折れて、先程の田町門跡の方向へと続く



左手を見たところ



この虎口は当初のものではないのか・・・



左手の土塁を見たところ



右手の土塁を見たところ



その木橋を北東側から見たところ



そこで右手を見たところ/前方が田町門跡



これは田町門跡から更に北西方向へ続いている外堀(水堀)を見たところ



更に北西方向に進む



ここで外堀(水堀)は止まってしまっている/本来は更に城址を取り巻いていたと思われるが、埋められてしまったようだ



外堀(水堀)の止まった所から、振り返って見たところ



土塁もここで止まってしまっている



そこから城址のある丘陵を見たところ



さて、ここはその近くにあった児童公園



「根古谷」という名が付いているが、この付近が当時の根古谷(根小屋)地区であったのだろうか



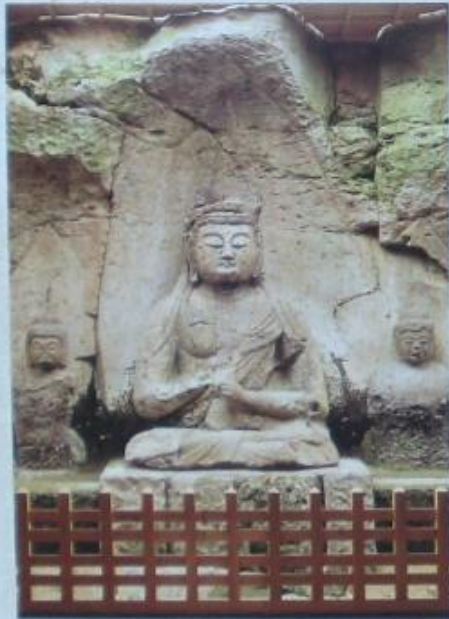
さて、愛宕坂を登り始めると、「臼杵磨崖仏」と記された看板があった





ふるその だい にち によ らい
古園石仏大日如来像 複製

大分県臼杵市深田所在



日本を代表する臼杵磨崖仏のなかで、最も有名な古園石仏(大日如来及び諸尊像13体)の中心をなす大日如来像である。凝灰岩の岩壁から彫り出したもので、平安時代後期の木彫像に通ずる本格的な作風を示す丈六仏(約2.8m)である。

鑑賞のポイント

両頬が丸く張り、両眉は美しい半円弧を描き、両眼のまなじりはわずかに切れ上がり、豊かな抑揚を見せる大きな眼を刻んでいます。お顔の形を引き締める様な小さな唇と締まった顎の表現によって、典雅で力強い像形がうかがえます。

レプリカのような



近くにはこんな説明坂も・・・

① 衛兵所跡

佐倉連隊跡関連位置図



佐倉市蔵



ここに常に衛兵が立ち、連隊に出入りする者を監視していました。

更に登ると、説明坂が立っている



えんしょうじあと あたごじんじやあと
円勝寺跡・愛宕神社跡



佐倉城大絵図



円勝寺は城内にあった真言宗の寺院でしたが、明治の廃仏毀釈で消滅しました。奥には愛宕神社があり、田町の氏神でもありましたが、連隊建設後は立ち入りが禁止されたため、移転しました。

付近には発掘調査が行われているような場所があった



こんな塩梅



ここは愛宕坂を登り切った所で、侍屋敷があった椎木曲輪跡のエリア



そこで振り返って、登って来た方向を見たところ



右手のマウンドの裏を見ると、こんな斜面となっていた



説明坂が立っている/背後が国立歴史民俗博物館の建物



しいのきくるわ

椎木曲輪 (侍屋敷)



歴史館外周図



しいのきくるわ
歴博があるのは「椎木曲輪」と呼ばれる侍屋敷地区で、連隊時代は兵舎がありました。歴博駐車場も侍屋敷の跡で、外側には「杉坂」と呼ばれる坂や秋葉神社がありました。

さて、今度は馬出し空堀→椎木門跡→姥ヶ池→三の門跡→三の丸跡→二の門跡→二の丸跡→一の門跡→本丸跡→銅櫓跡→天守閣跡→台所門跡→角櫓跡の順に見てみよう



これは椎木曲輪跡から城中心部へと至る椎木門跡の手前に立ちはだかる巨大な角馬出しと空堀/南東側から見たところ



馬出し空濠

城門前に築いて人馬の出入を敵に知られぬようにした土手が馬出しであります。

この空濠は、明治初期より連隊造営のため埋めたてられていたもので、昭和**46**年から**2**回にわたる発掘調査により、長辺**121^m**・短辺**40^m**のコの字型、深さ**5.6^m**の規模と確認されました。

復元にあたっては長辺、短辺はそのままとし深さを約**3^m**としてあります。

北東側から見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



反対側から見たところ



南側から北方向に見たところ



そこで左手を見たところ



反対側から見たところ



角馬出し側から空堀方向を見たところ



さて、これは角馬出しから城中心部の西方向を見たところ/右手に説明坂が立っている

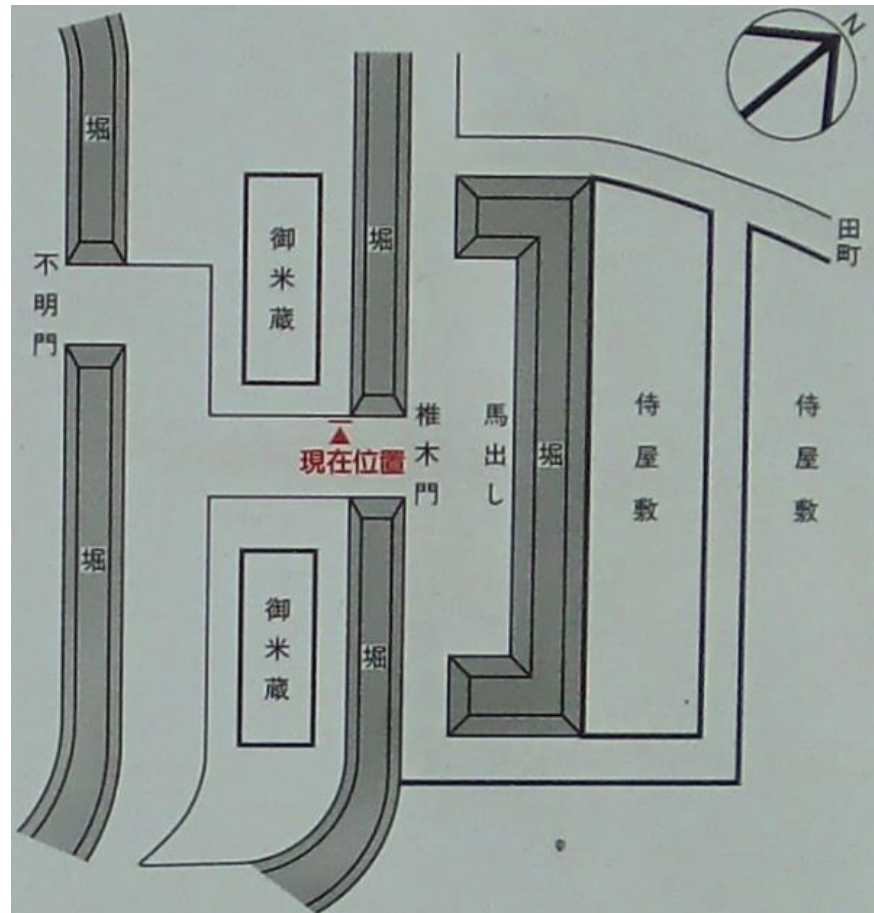


しいき ほんあと 椎木門跡



北面、木造、本瓦葺、二階造り
梁間三間、桁行七間。
前面に馬出しが設けられていた。

国立歴史民俗博物館



これは椎木門跡の手前にあった空堀跡を北側か南方向に見たところ/現在は埋められてしまっている



前方のこの木々の中にその痕跡が残っている



左手からその空堀を見たところ/かなり深い



そこで右手を見たところ



さて、ここは椎木門から城内に入ったエリア(三の丸)で、右手に説明坂が立っている



③佐倉陸軍病院跡

佐倉連隊跡関連位置図



- ① 連兵舎跡
- ② 兵舎の埋蔵跡
- ③ 佐倉陸軍病院跡
- ④ 兵士が文筆を敷き込んだモッコウ
- ⑤ 塙遺の碑
- ⑥ 佐倉兵舎跡の碑
- ⑦ 連隊跡の碑
- ⑧ 連隊跡の12階跡
- ⑨ 軍犬・軍馬の墓

創設は明治7年。佐倉屯営病室・佐倉営所病院・佐倉衛戍病院・佐倉陸軍病院と名称が変遷した。昭和40年代までテラスを配した洋風病棟が残っていました。

こんな石碑もあった



また、ここはその近くに残る兵営の便所跡



② 兵營の便所跡

佐倉連隊跡関連位置図



雨天休憩所近くに土台のみが残る。江原新田では連隊
と契約し、下肥・馬糞の払い下げを受け、汚物掃除を
担当していました。

こんな塩梅



さて、空堀脇から姥ヶ池へこの階段を下りてみよう



大きな池が見えて来た



姥が池

この池は江戸時代、かきつばたの名所でした。春先には近在のひき蛙が数千匹あつまり、左右にわかれて昼夜7日間、蛙合戦を行なっていたと、「古今佐倉真佐子」（江戸時代中頃の書物）に記されています。

後に（天保年間）この池のまわりで家老の娘をおもりにしていた姥があやまって娘を池に落してしまい娘はそのまま沈んでしまいました。姥は困り果て身を投げたと伝えられ、以来「姥が池」といわれるようになりました。

こんな塩梅



さて、そこから自由広場方向へこの階段を登ってみよう



途中、右手を見ると空堀がある



空堀



北条城大絵図



城の防御のための溝で水の無いものを空堀と呼びます。空堀は土塁とともに城を外敵から守るために掘られたもので、空堀を巧みに配置し城の守りとしています。また、水があるものを水堀と呼びます。

少し中に踏み込んでみる/これは広小路・天神曲輪のエリアと城中心部とを区画するための空堀



さて、前方が自由広場/右手に説明坂が並んでいる





下総国 佐倉城(鹿島城) 市指定史跡 佐倉城跡

佐倉城址 佐倉城跡
佐倉城址は、鹿島郡佐倉町にあり、佐倉城跡として知られる。この城は、1590年に徳川家康が佐倉藩を築城した際に築かれた。城址には、土塁、堀、櫓跡などが残っており、その規模は東西約1.5キロメートル、南北約1.2キロメートルにわたる。城址の中心には、本丸、二の丸、三の丸があり、それぞれが土塁で囲われていた。また、城址の周囲には、堀がめぐらされており、その深さは約2メートルに達している。城址の南には、佐倉藩の藩政資料館があり、佐倉城の歴史や藩政の発展について詳しく説明している。また、城址の北には、佐倉城址公園があり、散策やピクニックに最適な場所となっている。佐倉城址は、佐倉藩の歴史を伝える重要な史跡であり、その雄姿を今も残している。佐倉藩は、徳川幕府の重要な藩であり、その発展は佐倉城の築城と密接に関連している。佐倉城址公園は、市民の憩いの場として、また観光客の歴史学習の場として、重要な役割を果たしている。佐倉城址は、佐倉藩の歴史を伝える重要な史跡であり、その雄姿を今も残している。佐倉藩は、徳川幕府の重要な藩であり、その発展は佐倉城の築城と密接に関連している。佐倉城址公園は、市民の憩いの場として、また観光客の歴史学習の場として、重要な役割を果たしている。



佐倉城址公園案内図
佐倉城址公園は、佐倉城跡の南側にあり、散策やピクニックに最適な場所となっている。公園には、多くの木々や花壇があり、四季を通じて美しい景色を楽しむことができる。また、公園には、多くのベンチやトイレがあり、快適な散策を楽しむことができる。佐倉城址公園は、市民の憩いの場として、また観光客の歴史学習の場として、重要な役割を果たしている。佐倉城址公園は、佐倉城跡の南側にあり、散策やピクニックに最適な場所となっている。公園には、多くの木々や花壇があり、四季を通じて美しい景色を楽しむことができる。また、公園には、多くのベンチやトイレがあり、快適な散策を楽しむことができる。佐倉城址公園は、市民の憩いの場として、また観光客の歴史学習の場として、重要な役割を果たしている。



佐倉城址公園	〒287-0201 千葉県佐倉市佐倉
佐倉城址公園	〒287-0201 千葉県佐倉市佐倉

日本100名城スタンプ

平成13年7月 佐倉市公園緑地課

日本百名城 佐倉城の歴史

佐倉城は、戦国時代中頃の天文年間（1532～1552）に鹿島幹胤が築いたといわれる中世城郭を原型として、江戸時代初期の慶長15年（1610）に佐倉に封ぜられた土井利勝（1573～1644）によって翌慶長16年（1611）から元禄3年（1617）頃までの間に築城された平山城です。

徳川家康により、江戸の東を守る要として重要視されました。北に印旛沼、西と南に川が流れる低地に西向きに突き出した「馬の背」と呼ばれる台地の先端に位置しています。佐倉城は、こうした地勢を巧みに利用し、水堀、空堀、土塁を築いて守りと防御、またつながる台地上に武蔵屋敷と町屋、仏閣を配して城下町の守りを固めました。

歴代佐倉城主（佐倉藩主）のうち9人が老中となっています。これは全国最多で「老中の城」と呼ばれています。なかでも幕末期の城主堀田正睦（1810～1864）は、財政難に苦しむ佐倉藩の改革に成功するとともに日本を開国に導いた開明的な老中として有名です。

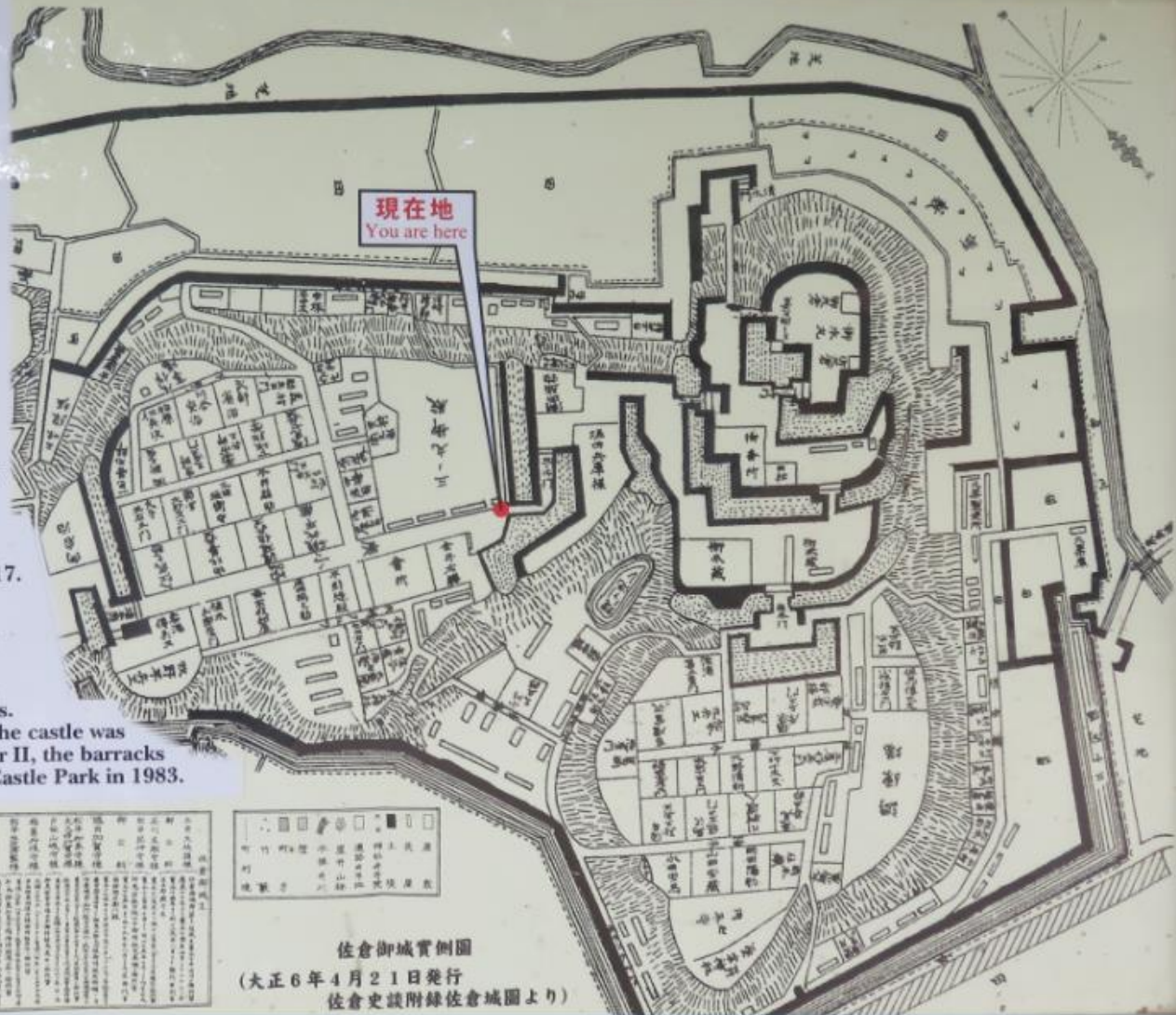
明治維新後より終戦までは陸軍歩兵第2連隊、後歩兵第57連隊（通称 佐倉連隊）が置かれました。

Sakura Castle — One of Japan's Top 100 Castles
Sakura Castle was constructed from 1611 to around 1617. Successive lords of Sakura were chosen from among the most trusted vassals of the Tokugawa government for the defense of the eastern part of Edo (present-day Tokyo) Castle.

The remains of dry moats, water moats and earthen embankments demonstrate well the castle surroundings. In 1871, the feudal domain system was abolished and the castle was knocked down to build army barracks. After World War II, the barracks were demolished and the castle ruins became Sakura Castle Park in 1983.

ここは佐倉藩主 堀田正睦公 逝去の地です

日本を開国へ導いた幕末の佐倉藩主堀田正睦公は、晩年この看板のすぐ裏にあった三の丸御殿（松山御殿）に住み、元治元年（1864）3月、岡御殿で亡くなりました。



佐倉御城實例圖

（大正6年4月21日発行
佐倉史談附録佐倉城圖より）

佐倉城址公園案内図

Sakura Castle Park Guide Map

ある佐倉城跡を整備した
はもちろん、さらに
その郭の一辺には国立

守られた南出丸や西出丸

して植えたと伝えられる
(千葉県指定天然記念物)
などの大木がいたる所
0品種1100本もの

ていた際、あやまって
話が伝わる「姥が池」
、正岡子規の句碑などが

ンプ(No.20)が置かれ、
物などを展示した佐倉城址
です。



現在地
You are here

佐倉城址公園センター
(日本100名城スタンプ)
Sakura Castle Parks control center
(Small museum of Sakura Castle)

くらしの植物苑

佐倉中学校

国立歴史民俗博物館

右手を見ると、ここにも説明坂が立っている



正面は空堀/これも広小路・天神曲輪のエリアと城中心部とを区画するための空堀



あ三の丸跡と東の惣曲輪跡を区切る空堀

空堀



佐倉城大略図



城の防御のための溝で水の無いものを空堀と呼びます。空堀は土塁とともに城を外敵から守るために掘られたもので、空堀を巧みに配置し城の守りとしています。また、水があるものを水堀と呼びます。

空堀底に下りて見たところ/左手が広小路のエリア、右手が三の丸跡



その前方の状態/この先は丘陵を下り落ちている



振り返って見たところ



さて、ここは三の門跡/左手が先程の空堀



説明板が立っている



三の門跡



明治初期撮影（撮影一 阿部忠生）



佐倉城大略図



北面、木造、本瓦葺、二階造り、梁間三間、桁行六間
この門は御作事の諸道具を入れた倉庫として使われ、
門内は三の丸といい、家老屋敷が置かれていた。

佐倉市



佐倉城大絵図

ここは三の丸跡のエリア/土塁が残っている



その土塁の切れ目に虎口が見える



アップで見たところ/ここを下って行くと西出丸跡へ行けるようだ



右手を見たところ/土塁が続いている



少し先に進んで振り返って見たところ



これは三の丸のエリアを見たところ



こんなものも立っていた



これはやはり三の丸に建つ三逕亭



さて、三の丸跡から城中心部へと至る二の門跡の手前に銅像が立っている





タウンゼント・ハリス Townsend Harris

安政3年(1856)7月、アメリカ総領事タウンゼント・ハリスは、フランクリン・ピアス大統領の親書を携え下田へ到着しました。来日の目的は、他国に先駆け日本と通商条約を結び、開国を実現させることでした。

こうしたアメリカの動向が、開明派の藩主堀田正睦公を外交の舞台に登場させることとなりました。ハリスは正睦公との幾度にもわたる直接交渉で紆余曲折を重ねますが、「通商関係は、相互の友愛と信頼によってのみ実現する」との強い考えが、正睦公を共感させたようであります。

安政5年(1858)6月に至り、イギリス、フランスなどからも開国要求の激しさが増す中、ハリスは正睦公に対し、「今こそ条約調印の機」と訴えました。こうした状況を受け、それまで正睦公の指揮下で交渉にあたってきた井上清直、岩瀬忠震きよなお両名がアメリカ軍艦ポーハタン号に赴き、日米修好通商条約に調印しました。今からちょうど150年前の6月19日のことです。

幾多の困難を乗り越え、大役を果たしたハリスは、文久2年(1862)4月、5年9か月間の日本滞在に終止符を打ち、南北戦争の只中にある母国に帰りました。

この銅像は、日米修好通商条約150周年を記念して、佐倉街づくり文化振興白井基金等の支援、協力のもと、佐倉ライオンズクラブが建立するものです。

平成20年6月14日

佐倉市長 藤 和 雄



堀田正睦公像

堀田正睦公

日本を鎖国から開国に導いたことで知られる堀田正睦公は、文化7年（1810）8月1日に生まれ、文政8年（1825）に佐倉藩主となりました。

天保4年（1833）に藩政改革を宣言し、文武の奨励によって藩士の意識高揚を図り、人々の生活の向上にも力を注ぎました。特に、藩校の拡充や諸藩に先駆けて蘭学を導入するなど、多くの人材を育成しました。

公は、天保12年（1841）に幕府の老中に就き、安政2年（1855）には老中首座となり、翌年には外国事務取扱に任じられます。「攘夷」が叫ばれるなか、欧米列強に対抗するには、貿易によって国を豊かにすることが必要であるとして開国を唱え、アメリカ総領事タウンゼント・ハリスと「日米修好通商条約」を結ぶ交渉に全力を傾けました。

元治元年（1864）3月21日、公は、佐倉城中の三の丸御殿で卒し、甚大寺に葬られました。後に、法号から「文明公」と称えられ、広く敬愛されています。

この銅像は、佐倉ライオンズクラブが正睦公の遺徳を偲び、クラブ創立40周年を記念し、ゆかりの地に建立するものです。

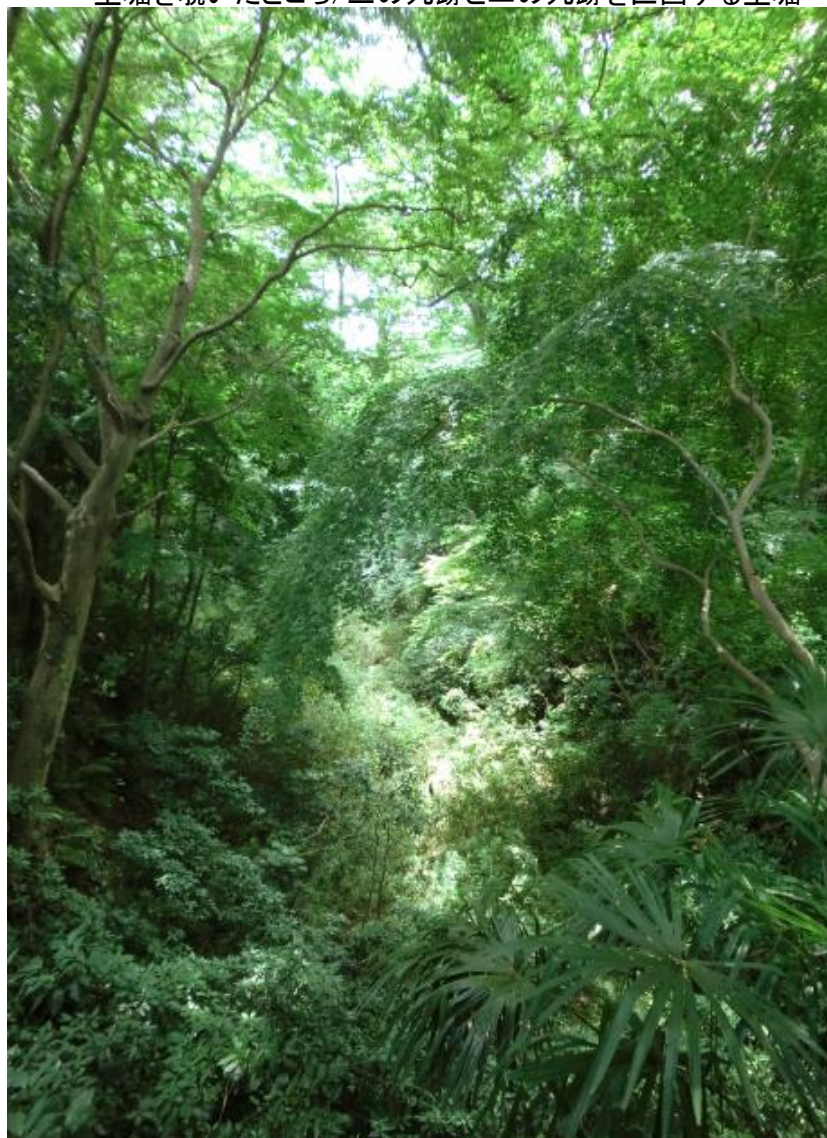
平成18年10月21日

佐倉市長 渡貫博孝

その右手には説明板が立っている



空堀を覗いたところ/三の丸跡と二の丸跡を区画する空堀



さて、二の丸門跡へと進んでみよう



説明板が立っている



二の門跡



明治初期撮影（撮影一 阿部忠性）



佐倉城大略図



東面、木造、ほんかわらぶき本瓦葺、二階造り、はりまさんけん梁間三間、けたまきはちけん桁行八間
本丸から大手門にいたる第二の門で「二の御門」と呼ばれていた。

一の門の東方一直線上にあたり、武器庫として使用された。門内は二の丸といい、はんせい藩政を執る役所が置かれていた。

佐倉市

この先が二の丸のエリアで、前方には二の丸御殿跡がある



佐倉城二の丸御殿 (御番所、対面所) 跡

佐倉城の本丸御殿は、しょうぐんおな 將軍御成り時の宿所とし、しゆくしよ 年始・ねんし 五節句などのほかは常用されませんでした。また、佐倉に残る古記録「古今佐倉真佐子」には、ごんげんこう 権現公 (徳川家康) が本丸御殿にて休憩されて以来恐れ多く、常用されなかったと記されています。 ※「徳川実記」には、徳川家康は慶長十九年(1614年)1月と元和元年(1615年)11月の2回、鷹狩の折佐倉に立ち寄ったと記されています。

佐倉城の歴代城主は、本丸御殿ではなく、ここ二の丸御殿に住んでいました。のべ413畳の広さであったようです。多くの藩士が詰め、勤めをしていた御殿であり、まさに佐倉城の中樞でした。

幕末期には老朽化し、三の丸に新御殿が作られ (三の丸御殿)、そこが藩主の住まいとなりました。幕末

の名君堀田正睦公は、三の丸御殿にて亡くなっています。



The Ninomaru Goten (The Palace House In The Second Circle) Remains Of Sakura Castle

The typical castle consisted of multiple rings of defense, with the so called Honmaru in the center followed by the Ninomaru. The castle tower stood in the Honmaru, and was designed for lords to reside. However, the successive Lords of the Sakura castle lived there only until Tokugawa Shogun(Tokugawa Ieyasu) visited and stayed there in 1611. Since then, the lord lived in Ninomaru, the second court, and many samurai worked there too. So, the Ninomaru, 413 tatami-mat in size (about 680 m²) became substantial center of the Sakura Castle until 1871.

平成 30 年 2 月 佐倉市

この辺りが二の丸御殿跡



振り返るとこんなものもあった



常磐木や冬、されまさる城の跡

明治期おける俳句・小説・文芸評論・写生画などに活躍した 正岡子規(一八六七―一九〇二)は、一八九四(明治二十七年)十二月、本所駅(現錦糸町駅)―佐倉駅間に開通した総武鉄道に初乗りして佐倉の地を訪れています。

子規は、総武鉄道佐倉駅(現JR佐倉駅)より、まず佐倉の街の広がる「馬の背」のような台地を眺め、「霜枯の佐倉見上ぐる野道かな」を読んでいます。現在の表町、新町方面より、日清戦争における清国人の捕虜収容所となっていた海隣寺の前を通っています。その後、海隣寺坂(現市役所脇の坂)を下り、田町を抜け、田町の堀付近(現歴博下水堀付近)で城を眺め、この句を詠み、もとの道を佐倉駅へ引き返しています。

子規は佐倉の麻賀多神社で幼少期を過ごした 鑄金工芸作家の香取秀真や旧佐倉藩士であり 佐倉で幼青年期を過ごした洋画家の浅井忠とも親交がありました。

「霜枯の佐倉見上ぐる野道かな」の句碑は、JR佐倉駅前城南橋付近にあります。

平成二十七年十二月

これは、そこで二の丸御殿跡と反対側の西方向を見たところ/左手には土塁が続いている/右手には二の丸跡と本丸跡を区画する空堀がある



左手の土塁を見たところ



さて、ここは二の丸御殿跡の北側の二の丸跡エリア



説明板が立っている



佐倉城の礎石

昭和五十九、六十年（一九八四、一九八五年）国立歴史民俗博物館の研究棟を建設するために、同敷地を発掘調査し、旧陸軍の営所跡を検出した。

兵舎跡の基礎には、大量の石が詰めてあったが、主柱の建つ位置には佐倉城の礎石を埋め込んでいた。佐倉城は、江戸時代初期の元和年間（一六一〇年代）に土井利勝がこの地に築いた城である。明治時代初期（一八七三年）に同じ場所に陸軍の営所をおく際に、佐倉城の建物は取り壊し、その基礎を兵舎の基礎に転用したのである。





さて、ここは一の門跡/前方が本丸跡で、この土橋の両サイドは二の丸跡と本丸跡を区画する空堀



右手の空堀を見下ろしたところ



一の門跡左手に説明板が立っている



一の門跡



殿内塔前様影（撮影 一 阿部忠信）



佐倉城大略図



東面、木造、本瓦葺、二階造り、梁間四間、桁行八間
本丸からみてはじめての門で「一の御門」と呼ばれて
いた。門内は本丸といい、天守閣、銅櫓、角櫓、御
殿が置かれ、御殿の前庭には金粉をすりこんだ栗石が
敷かれていたと伝えられている。

佐倉市

ここが本丸跡/東側から西方向に見たところ



振り返って一の門跡を見たところ/両サイドに門の建物跡が表示されている



右手の門の建物跡見たところ



左手の門の建物跡見たところ



その左手を見ると土塁と説明板が立っているのが見える



土 塁



佐倉城大縄図



佐倉城は石垣のない土づくりの城です。城の防御のための土手を土塁と呼びます。土塁は城を外敵から守るために築かれたもので、土塁を巧みに配置して城の守りとしています。本丸の土塁の上には土塀が存在しました。

その土塁に登ってみたところ



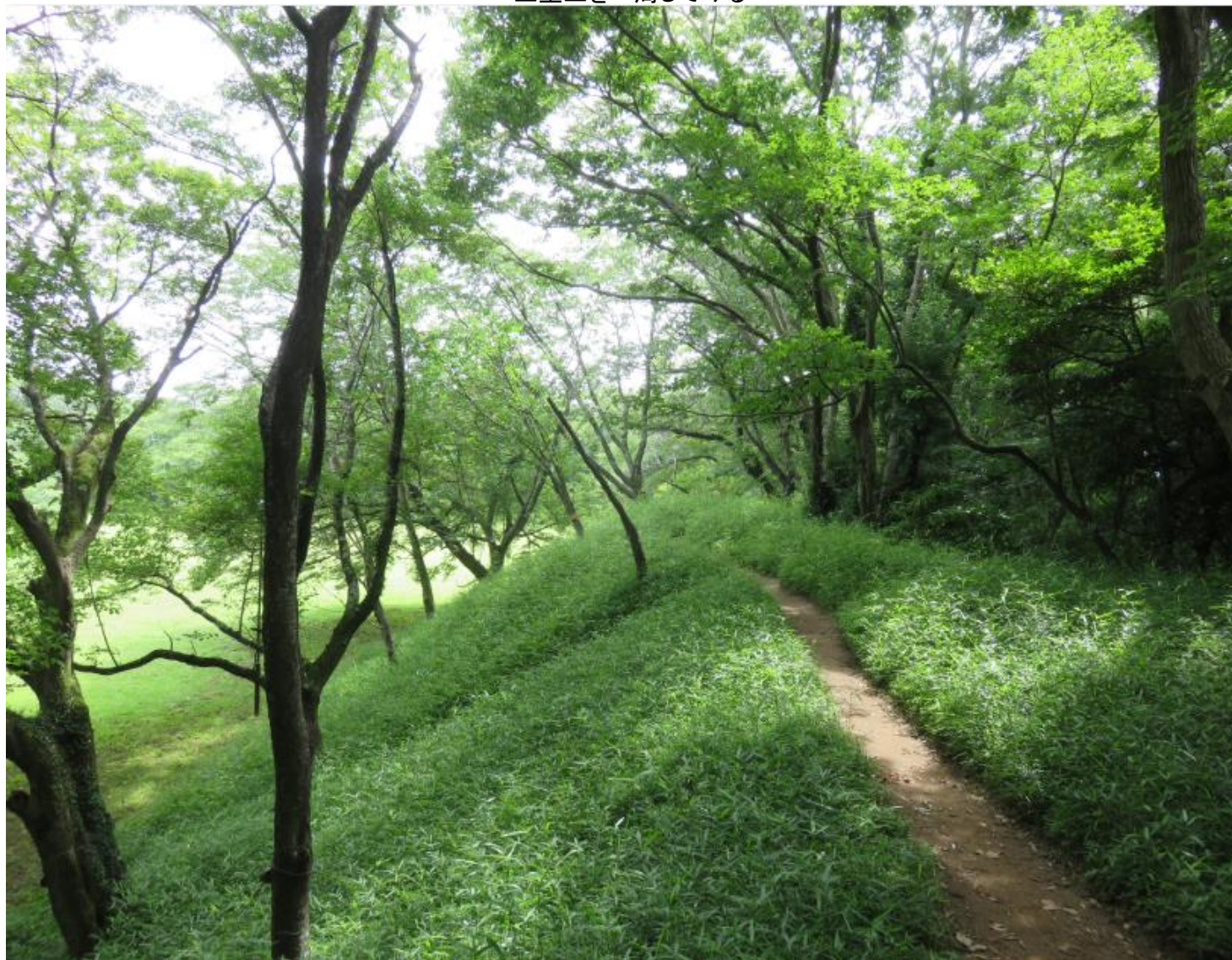
右手の空堀を見下したところ/非常に大きく深いのが見て取れる



左手の本丸跡を見下したところ



土塁上を一周してみる



北側には銅櫓跡があった



説明板が立っている



とう やぐら あと 銅 櫓 跡



明治初期撮影



佐倉城大略図



木造、銅瓦葺、六間四方、二階造り。

この銅櫓は、土井利勝が將軍から拝領し、江戸城吹上庭内より移築したものでもとは三層であつて、太田道灌が造ったものといわれている。

佐倉市

更に西側に回り込む



こんなものもあった





本丸御殿跡の配置図のようだ



更に南側に回り込む



前方にマウンドが見える



こな塩梅



ここにも櫓があったのであろうか



そこから台所門跡を見下したところ



前方は南側から見た天守閣跡



右手から見たところ/二段になっている



佐倉城本丸天守及びその石碑について

The Castle Tower Remains of the Sakura Castle And The Stone Plate

佐倉城の天守（天守閣）は、2段の土塁上に片側を掛ける造りでした。
本丸側からは4階建て、反対側崖下（搦め手側）からは3階建てに見えました。
その造りを石碑で再現しています。

天守（天守閣）は、文化十年（1813年）に盗人の行燈が倒れたことによる
火災により焼失し、その後再建されませんでした。

天守（天守閣）の模型は、城址公園東端にある佐倉城址公園センターに
展示されています。

※佐倉城は、旧下総国周辺に良好な石の産地がなかったこと等から石垣を使用していない珍しい近世城郭です。

その一方で戦国時代から続く土の城の最終到達点（集大成）といわれています。

※石碑は天守跡（2段の天守台）左側土塁上にあります。

The castle tower of the Sakura Castle stood on two steps of earthwork.

It looked like 4 stories from here and looked like 3 stories from the other side.

We expressed the shape by the stone plate.

The castle tower burned in 1813.

Model of the castle tower is displayed in Sakura Castle parks control center.

The center is in east edge of the park.



平成29年3月 佐倉市

一段目の土塁



振り返って見たところ



ここは本丸跡から見た台所門跡で両サイドに門の建物跡が表示されている



右手を見たところ



左手を見たところ



前方が二の丸跡への土橋



台所門跡 (不明門)



これは二の丸跡側から見たところで、この土橋の両サイドは二の丸跡と本丸跡を区画する空堀



振り返って二の丸跡を見たところ



左手を見たところ/土塁が続いている



右手を見たところ/ここを下って行くと西出丸跡へ行けるようだ



本丸跡に戻って、正面は南側にある角櫓跡



三階櫓が建っていたようだ



こちらは北側にある夫婦モッコク



千葉県指定天然記念物 佐倉城の夫婦モッコク

昭和二十七年十一月二日指定

モッコクは清澄山より東海道以西、四国、九州の近海地に自生する小喬木（ついでに）である。

本樹は、もともと二株植えられたもののうち、一株が夫婦モッコクとなったものか、三株寄植えしたもののうち二株が癒合（ゆがひ）してできたものか、明らかでない。樹高十一・六メートル、目通り幹囲二・六メートルで、モッコクとしては巨木である。佐倉城の築城については、「土井利勝が慶長十六年（一六一二）から元和三年（一六一七）まで七年をかけて完成し規模こそ小さくとも本丸等に種々の庭樹を植え雄大な風格を示した」との伝えがある。

このモッコクは庭樹の一つであったと考えられている。佐倉市松林寺境内にも巨木が所在する。

昭和五十七年二月十一日

千葉県教育委員会
佐倉市教育委員会

こんな説明坂も立っていた

④兵士が文字を彫り込んだモッコク

佐倉連隊跡関連位置図



ほんまるあと けんしてい てんねんきねんぶつ みき しょうわじゅうはちねんじゅう
本丸跡にある県指定天然記念物。幹に「昭和十八年十
がつ ほうたい らくが は
月」「砲隊」といった落書きが彫られています。

標柱も立っている



さて、今度は大手門跡(図の下の「至 新町」と記された方向に所在する)→自由広場(佐倉城址公園センター他)→三の門跡の
右手付近に残る佐倉連隊跡の遺物の順に見てみよう



ここが城域の南東にある大手門跡



説明坂が立っている



大手門跡 (追手門)



明治5年ごろ阿部忠忱撮影

大手門は惣曲輪の表門。この門の西側には広小路、中下町、大下町といった武家屋敷地が整備され、三の丸御殿、会所なども置かれていた。中央に広小路の通りと重臣屋敷の堀が写されている。佐倉市

標柱も立っている



ここが「広小路の通り」ということか/右手に佐倉中学校、左手に佐倉東高校が見えてくる



ここは右手の天神曲輪跡にある「くらしの植物苑」/冠木門が建っている



この建物は佐倉城址公園センター/広小路と呼ばれるエリア(自由広場)にある/このエリアには武家屋敷が整備され、三の丸御殿も置かれていたと云う



佐倉城跡のさまざまな資料が展示されていた/これは天守閣の模型/城内側からは4階建てに、城外側からは3階建てに見える



本丸跡の復元模型



佐倉城 一之門 (復元)

徳川幕府の御用として、寛政11年(1799)に完成した。現在は、佐倉市立歴史民俗資料館に保存されている。



佐倉城 二之門 (復元)

寛政11年(1799)に完成した。現在は、佐倉市立歴史民俗資料館に保存されている。



佐倉城 三之門 (復元)

寛政11年(1799)に完成した。現在は、佐倉市立歴史民俗資料館に保存されている。



佐倉城大絵図



佐倉城

佐倉城は、徳川幕府の御用として、寛政11年(1799)に完成した。現在は、佐倉市立歴史民俗資料館に保存されている。

灯の「記念碑」復元される

佐倉城の歴史を伝えるために、灯の「記念碑」が復元される。この記念碑は、寛政11年(1799)に完成した。現在は、佐倉市立歴史民俗資料館に保存されている。



この記念碑は、寛政11年(1799)に完成した。現在は、佐倉市立歴史民俗資料館に保存されている。

歴史資料館の歴史民俗資料館に保存されている。

御城
寛政11年(1799)に完成した。現在は、佐倉市立歴史民俗資料館に保存されている。



佐倉城のしるし

佐倉城は、北に印旛沼、西と南に鹿島川と高崎川が流れる低地に、西向きに突き出した台地の先端に、自然の地形を上手に利用して作られています。

西向きに突き出す台地が北に向かってし字型に折れる角の部分に、城の中心部である本丸があります。本丸の北から東には、三重、四重の空堀が掘られ、その外側に武家屋敷が造られました。武家屋敷は、北側は現在の国立歴史民俗博物館、東側は、佐倉中学校、佐倉東高校あたりの城内のほか、大手門を出た城外にもありました。大手門から東に向かうと、台地上を通る街道沿いに商家が並んでいました。

本丸の北から西、南にかけては急斜面の崖で、その下に水堀があります。さらに城の西側で合流する鹿島川と高崎川を外堀のように利用し、また、印旛沼の範囲も現在より広く、城の近くまでが低湿地であったため、佐倉城は水によって守られた城であったとも言えます。

佐倉城

佐倉城の場所には、戦国時代には千葉氏が本佐倉城を守るために鹿島城を造っていましたが、建設の途中で、千葉氏は滅ぼされてしまいました。

慶長十五年(1610)に、小見川から佐倉へ配置換えとなった藩主、土井利勝によって、鹿島城を基礎として新しい城の築城が始まり、慶長十六年(1611)の着手から完成までには7年かかりました。

江戸幕府は、佐倉を江戸の東方の守りの拠点として重視し、佐倉城には譜代大名(古くからの徳川家の家来の大名)を配しました。

明治六年(1873)に城跡に陸軍が置かれることになり、城の建物や城内の武家屋敷、堀や土塁の一部などは壊されてしまいました。

出土した瓦などの遺物も展示されていた



ここが自由広場/正面前方に佐倉城址公園センターが見える



振り返るとこんなものもあった



⑥ 佐倉兵営跡の碑

佐倉連隊跡関連位置図



さくら しじょうし こうえん しゅうひろば みなみがわ
 佐倉市城址公園自由広場の南側にある。昭和41年に
 こんりゅう けんさいち うつ れきはく けんせつ ご だいじ れんたいしやう
 建立、現在地に移ったのは歴博建設後。題字は連隊長
 いまむら ひとし りくぐん たいしやう しょ
 をつとめた今村均陸軍大将の書。



「佐倉兵營跡の記念碑」は昭和四十一年に旧佐倉五十七連隊本部跡付近に設置されたものです
 国立歴史民俗博物館が明治百年記念事業として建設されるにあたり昭和五十一年五月ここに移設しました



さて、これは三の門跡の右手付近に残る旧佐倉連隊脂油庫



きゅうさくられんたいしゆこ 旧佐倉連隊脂油庫

きゅうりくぐん ほへい だいごじゅうななれんたいとうつうしょう さくられんたい しようじゅう きかんじゅうとう
旧陸軍（歩兵第五十七連隊等通称佐倉連隊）が小銃、機関銃等の手入れ用の油を保管していた倉庫です。

この倉庫は、昭和九（1934）年発行の「^{えいないはいちず}宮内配置図」においてその存在を確認することができます。昭和二十（1945）年の終戦まで使用されたと推定されます。

佐倉連隊のうち歩兵第五十七連隊は、その一部が昭和十九（1944）年8月にグアム島にて^{かいめつぎよくざい}壊滅（玉砕）しました。また主隊は、同年11月のフィリピンレイテ戦でその大部分を失い、セブ島にて終戦を迎えました。

佐倉連隊の^{せんそういこう}戦争遺構として大変貴重です。

※^{ゆしこ}油脂庫ともいいますが、「宮内配置図」においては『^{きさい}脂油庫』と記載されております。

Storehouse of the oil for guns of the Sakura Regiment.

This was a storehouse of the oil for rifles and machine guns which the Sakura Regiment of the Japanese Army used from 1934 till 1945.

The third battalion of the Sakura Regiment was sent to the Guam Island and annihilated there in August, 1944. And many soldiers of the other battalions were decimated in the Battle of Leyte in the Philippines with U.S.A in November, 1944. Only a few soldiers of the Sakura Regiment survived when World War II came to an end.

その奥には「弾薬庫の跡」があった



⑦ 弾薬庫の跡

佐倉連隊跡関連位置図



- ① 砲兵用跡
- ② 兵舎の便所跡
- ③ 佐倉陸軍病院跡
- ④ 兵士が文字を
彫り込んだモッコウ
- ⑤ 壕道の跡
- ⑥ 佐倉兵営跡の跡
- ⑦ 弾薬庫の跡
- ⑧ 訓練用の12輪車
- ⑨ 砲臺大・砲臺の跡

うば いけにしがわ さかみち のほ おく くぼち まんいち ぼく
姥が池西側坂道を登った奥の窪地にあった。万一の爆
発に備えた土手や建物に使われたコンクリートの一部
が残されています。

さて、最後に西出丸跡(左手)→北出丸跡(右手)→帯曲輪跡の順に進み、そして国立歴史民俗博物館も覗いてみよう



これは西出丸跡を右手から水堀越しに見たところ



西出丸跡の左端を見たところ



その先にも水堀が続いている



振り返って西出丸跡を見たところ



これは西出丸跡を左手から水堀越しに見たところ



右手を見たところ



その先はこんな塩梅



水堀は西出丸跡を回り込んでいる



そこで振り返って西出丸跡を見たところ



水堀は西出丸跡の先も更に続いている



そこで振り返って西出丸跡方向を見たところ



その先に行くと、水堀は止まっているが土塁が前方に続いている



振り返って見ると城域に入る道がある



そこを進むと分かれ道がある



右手は三の丸跡方向に行けるようだ



左手は西出丸跡方向に行けるようだ



西出丸跡方向へ進むと左下にも行けるようになっている



こんな塩梅で、西出丸跡方向に続いているようだが・・・



一応、上の道を進むことにする



するとここで右上にも行けるようだ



この右上の道を進むと二の丸跡へ行けるようだ



こちらを更に進むことにする



すると左手の西出丸跡に寄り付く事が出来る



ここが西出丸跡



西出丸跡から水堀を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



振り返って西出丸跡を見たところ



さて、更に先程の道を北出丸跡方向に進もう



左手には水堀が見える



北方向に回り込んで進む



左前方に北出丸跡が見えて来た



さて、ここで右上に行く階段がある



これが右上に行く階段/帯曲輪へ行けるようだが、後程行ってみよう



更に少し進むと、左手の北出丸跡に寄り付けるようになっている



左手にある道を進む



北出丸跡には土塁が廻っている



アップで見たところ/正面の土塁の向こうは水堀となっている



左手を見ると土塁の左端に門が見える



右手を見ると、北出丸跡を土塁が回っているのが見て取れる



その先はこんな塩梅



そこで振り返って見たところ



さて、その土塁の上に登ってみよう



こんな塩梅/右手が北出丸跡、左手は水堀



左手の水堀を見たところ



さて、これが先程見えた薬医門



伝 佐倉城内薬医門

この薬医門は、佐倉城内にあった門だと伝えられています。城内のどの門であったのかは不明です。

廃城後、市内の酒造家土井家に移築されました。長くその表門として使用され、昭和三十七年、旧佐倉藩主堀田家の菩提寺である甚大寺に移築されました。

その後昭和五十八年、甚大寺より市に寄付され、佐倉城内のこの地に移築されました。

平成二十八年三月

佐倉市公園緑地課

左手は水堀が入り込んでいる



この門は昔城内にあったもの
であるが市内の酒造家と并連
に下賜され長くその表門として
使用された。昭和三十七年城主
堀田表の菩提寺である基天寺
がこれを譲り受け保管した。が
ふたたび市に寄付しこの地に
復元されたものである。

昭和五十八年三月

女坂宜天寺住職小川長顕識

土橋を渡って城外から北出丸跡を見てみよう



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



振り返って薬医門を見たところ



そこで右手を見たところ



同じく左手を見たところ



城外から土橋を見たところ



右後方を見ると水堀が続いている



その先もこんな塩梅



さて、これは城外から北出丸跡を見たところ



そこで右手を見たところ/土橋が見える



同じく左手を見たところ



これは北出丸跡の左端を見たところ/水堀が回り込んでいる



そこで右手を見たところ



さて、先程の帯曲輪への階段を登ってみよう



ここが帯曲輪のエリア



説明板が立っている



おび くる わ あと 帯 曲 輪 跡

おびくる わ 帯曲輪の位置

本丸を囲む空堀の一ノ門寄りの堀の落ち口から台所門寄りの堀の落ち口の間位置し、延長約二百六十メートル、巾約四メートルから五メートル、武者走りから帯曲輪まで約二十五メートル、帯曲輪から根方(水堀際)まで約十五メートル。

帯曲輪の用途

帯状に細長く城のまわりを囲む曲輪でその用途は、敵が城の根方より攻撃し、帯曲輪までよじ登ってきたとき武者走りにあらかじめ用意して置いた石材、木材などを投げ落とし、反撃するために設けたものである。

その先に進む



ここで帯曲輪は止まっており、前方で階段を登って行くようだ



階段を登ると二の丸跡へ出た



さて、ここが国立歴史民俗博物館



先史・古代ゾーンがリニューアル展示されていた



参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/013chiba/030sakura/sakura.html>

<http://mizuki.my.coocan.jp/yogokun/sakura.htm>

<https://www.travel.co.jp/guide/article/34918/>

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/bunkazai/sonohoka/kyoudo/inbanuma/sakurajou.html>

<http://www.siromegu.com/castle/tiba/sakura/sakura.htm>

<https://ameblo.jp/castle-manabu/entry-11538963599.html>

<https://wp.mikeforce.net/castles/2016/12/%E4%BD%90%E5%80%89%E5%9F%8E-%E2%88%92sakura-castle.html>

<http://okamoto-n.sakura.ne.jp/machi/siro/sakurajyou/sakurajyou.html>

https://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/55157768.html?_yosp=5L2Q5YJCJ5Z%2BO6Leh

<http://www.c-port.com/siro/sakurajyo.htm>

